Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-24

日本語学習者の発話における「てしまう」の使用実態 : 日本語母語話者と比較

簡, 卉雯

(Citation)
Learner Corpus Studies in Asia and the World,3:177-187

(Issue Date)
2018-03-12

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81010126

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010126

KOBE UNIVERSITY

日本語学習者の発話における「てしまう」の使用実態
—日本語母語話者と比較—

簡　弁雯(国立台湾海洋大学)
hwnchien@gmail.com

The Usage of Japanese Subsidiary Verb -*te simau*- in the Utterances of L2 Leaners—Compared with Japanese Native Speakers—

CHIEN　Hui-Wen (National Taiwan Ocean University)

概要

本稿は補助動詞「てしまう」の用法を「完結」,「対抗的」,「遺憾」,「非意図」と「間主観」の 5 つに分類し, 日本語学習者コーパス「KY コーパス」を用い, 習得順序を観察し, 母語の違いに応じて, 習得がどのように変わるか, 日本語母語話者(「上村コーパス」)と比較し, 検討を行ったものである。

調査の結果,「てしまう」の習得は「遺憾」の用法から始まり, 中国語と英語母語話者は「遺憾→非意図→完結→対抗的→間主観」という共通する順序で習得していくのに対して, 韓国語母語話者は,「遺憾→対抗的→完結→非意図→間主観」の順序であることが推測された。

また, 日本語母語話者では「てしまう」の「遺憾」,「完結」と「間主観」の用法が多く用いられた。一方, 日本語学習者では「遺憾」,「完結」と「非意図」の用法が高い率で使用されたことが観察された。「非意図」の意味について, 日本語学習者の会話では使用率が高かったが, 主に「忘れる」,「考える」と「なる」の 3 つの動詞と結び付いて使用する傾向があった。

キーワード

てしまう, 習得順序, アスペクト的な意味, 感情・評価的な意味, 母語

1. はじめに

日本語の補助動詞「てしまう」には, 一連の動作が最後まで行われるという「アスペクト的な意味」を表わす場合と, 出現された事態が話し手にとって望ましくない帰結をもたらすという「感情評価的な意味」を表わす場合があると言われている(高橋, 1969;吉川, 1973;寺村, 1984;守屋, 1994;金水他, 2000;一色, 2011;中山, 2015)。「てしまう」の意味が多岐にわたるため, 日本語学において, 重要な研究対象となっており, 数多くの研究がなされてきている。

第 2 言語としての「てしまう」の習得に関して, 初級段階から教科書に導入されているが, 上級日本語学習者にも使いこなすのが難しいことが報告されている(棚橋 1996)。習得が困難になる原因について, まだ明らかにされていないところが多い。一方, 初級文法項目の中で,「てしまう」は複数の日本語話者コーパスで(会話コーパス『男性のことば・職場編』, 新書コーパス『CASTL/J』)高頻度に使用される項目であるとの調査結果がある(江田・小西, 2008)。このような「てしまう」は, ど

のように日本語学習者に習得されてきたのか，習得過程を解明することにより，効果的な指導法の開発に繋がると考えられる。また，「てしまう」は話し言葉的な文脈の中で多く用いられており，話し言葉的表現のベースとなる会話の考察が重要であると報告されているので（中山，2015），本稿では，日本語学習者発話コーパス「KY コーパス」を用い，「てしまう」の用法を「完結」，「対抗的」，「遺憾」，「非意図」と「間主観」の 5 つに分類し，日本語母語話者の使用と比較しながら，日本語学習者による「てしまう」の使用実態を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1「てしまう」の習得に関する研究

第 2 言語としての「てしまう」の習得に関する先行研究は数がまだ少なく，成人の日本語学習者を対象としたものには棚橋（1996）がある。棚橋（1996）は「てしまう」の「遺憾」と「完了」の 2 つ用法の使用状況と使用環境に注目し，英語を母語とする日本語学習者を対象に，ストーリー・テリングの発話テストを行った。分析の結果，滞日期間及び学習期間が長いほど，「てしまう」の使用頻度と適切さが増加することが判明された。一方，日本語母語話者の多くが「被害の受け身」と共起させているが，日本語学習者にはその傾向は見られなかったことが指摘されている。棚橋（1996）の調査は英語母語話者を中心としているため，ほかの言語を母語とする学習者では，調査結果が同じなのかは明らかにされていない。また，補助動詞「てしまう」は，機能的に異なる「完結」，「対抗的」，「遺憾」，「非意図」と「間主観」の 5 つに分類できる。この 5 つの用法は学習者にとって難易が同じなのか，母語に関わらず共通する習得順序は見られるのか，使用状況は日本語母語話者とどう異なるかについて，未解明のままで，さらなる検討が必要である。

本稿は日本語学習者発話コーパス「KY コーパス」を用い，日本語母語話者の使用と比較しながら，「てしまう」の習得状況は母語と日本語レベルの違いによりどのように移り変わるのか，各習得段階の変化の特徴を把握することを目的とする。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的

先行研究の成果及び課題を踏まえ，本稿では具体的に以下の 3 つの課題を明らかにすることを目的とする。

(1) a. 日本語学習者は「てしまう」の各用法の習得において，日本語レベルと母語の違いに応じて，習得がどのように変わるか，共通点と個別性を考察する。
   b. 日本語学習者による「てしまう」の各用法の習得順序を考察する。
   c. 日本語母語話者の会話に観察された「てしまう」の使用特徴が日本語学習者に見られるか，母語の異なる学習者の間に違いがあるかを考察する。

3.2「てしまう」の用法分類

本稿では補助動詞「てしまう」の用法を「アスペクト的な意味」と「感情・評価的な意味」の 2 つに分け，その中の「感情・評価的な意味」は更に 4 つの下位分類を行った。それぞれの定義については，守屋(1994)と一色(2011)を参考し，以下の(2)に示したように分類し定義を下した。

(2)「てしまう」の用法分類

ア.「アスペクト的な意味」:

a.「完結」:一連の動作が最後まで行われることを表す。

例:太郎がカードを配ってしまうと，皆はそれを一斉に手に取った。

(一色，2011:203-205)

イ.「感情・評価的な意味」:出現された事態が話し手にとって望ましくない帰結をもたらすことを表わす。

a.「対抗的」:動作主体が強い意図のもとで動作を完結することに，話者の表現意図が置かれる場合に生じる意味である。

例:こうしていないで，宿題をやってしまおう。 (守山，1994:57)

b.「遺憾」:動作主体が意志を持って行為を行い，あるいはコントロール不可能な状況下で行為を行い，その結果話し手が自分にとっては好ましくないと否定的に捉える傾向が高いことを表す。 (一色，2011:205-209)

例:バスに忘れ物をしてしまいました。

c.「非意図」:動作主体のコントロール不可能な状況下で行為が行われるということを表す。感情・評価的な意味が薄い。 (一色，2011:209-211)

例:スワンボードがあると，つい写真を撮ってしまう。今もっとも熱い被写体のひとつ(知らんけど)。 (宮田珠己『晴れた日は巨大仏を見に』;一色，2011:210)

d.「間主観」:聞き手に対する「言い訳」や「照れ隠し」や「配慮」を表す。話し手が「てしまう」を付加して行為の意図性を軽減させることにより，意図的にその行為を行った印象を弱め，その行為に対する反省の念を聞き手に伝わることを表す。

例:A:誰？パソコンの電源，勝手に切ったのは。

B:すみません…，私がさっき切ってしまいました。 (一色，2011:211-215)

3.3 データと分析手法

3.3.1 データ

調査に使用したのは日本語学習者コーパス「KY コーパス」と日本語母語話者コーパス「インタビュー形式による日本語会話データベース(「上村コーパス」)」という 2 つの発話コーパスである。「KY コーパス」は OPI 方法によりデータ収集が行われたもので，中には英語，中国語，韓国語を母語とする日本語学習者それぞれ 30 名(初級 5 名，中級 10 名，上級 10 名，超級 5 名)，計 90 名分の発話データが収録されている。一方，「KY コーパス」と同じく OPI データである「上村コー

パス」は，OPI テスターが日本語母語話者（54 名）と非母語話者（56 名）計 120 名を対象に実施したものである。本稿は日本語学習者の使用状況と比較するため，「KY コーパス」における各レベルの学習者の人数に合わせ，「上村コーパス」から無作為に 10 名の母語話者発話データのみを抽出し，対照資料として分析に使用した。

3.3.2 分析の手順

以下の手順で分析を行った。まず，日本語母語話者 2 名に依頼して，「KY コーパス」から「てしまう」が使用された動詞を抽出して，誤用の動詞を適切な動詞と語形に訂正してもらった。日本語母語話者の判断結果に一致していないところがある場合，3 人目の日本語母語話者の評価を参考にして筆者が判断を下した。次に，3.2 で述べた「てしまう」の用法分類に基づき，抽出された「てしまう」を「完結」，「対抗的」，「遺憾」，「非意図」と「間主観」の 5 つに分類した。抽出の段階で，用法分類が曖昧な用語を対象外とした。また，統制群としての日本語母語話者のデータは，同じ方法で抽出し用法分類を行った。なお，「てしまう」の音韻縮約形「ちゃう」は「てしまう」と運用面において，微妙に違いがあるかもしれないが，本稿では同等に扱うものとした。

4. 結果と考察

本節では以下の 3 つの側面から分析結果を説明して検討していく。

1） 日本語母語話者と日本語学習者による「てしまう」の全体的な使用傾向を検討する。
2） 「てしまう」各用法の習得順序を検討する。
3） 母語の違いから「てしまう」の使用特徴を検討する。

4.1 「てしまう」の全体的な使用傾向

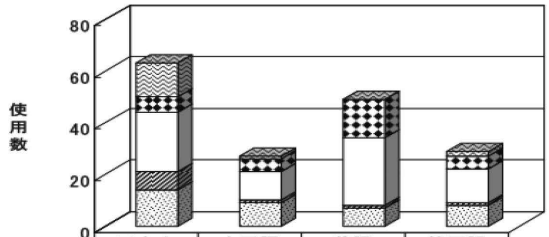
調査対象となる日本語母語話者と日本語学習者のデータを整理して表 1 のように示した。日本語学習者による「てしまう」の使用については，表 1 によって次の傾向が観察された。表 1 の使用数合計を見ると，英語母語話者には 49 個があり，中国語と韓国語母語話者の 2 倍弱となり，母語の違いにより差があることが明らかになった。

表 1 被験者による「てしまう」の使用数合計

	日本語母語話者（10 名）	中国語母語話者（30 名）	英語母語話者（30 名）	韓国語母語話者（30 名）
「てしまう」の使用数合計	63	27	49	29

また，「てしまう」の各用法の使用傾向を母語ごとに図示すると，図 1 のようになる。図 1 から，日本語母語話者は「遺憾」，「完結」と「間主観」に集中しており，その中で「遺憾」の使用数が最も多く，23 個あり，全体の 36.5%を占めていることが判明した。「非意図」の使用数が最も少なく，わずか 6

個(9.5%)であった。一方，日本語学習者は母語の違いに関わらず，「遺憾」，「完結」と「非意図」に集中して，日本語母語話者と同様に「遺憾」の使用数が最も多かったことが分かった。



	日本人	中国語	英語	韓国語
間主観	13	1	0	2
非意図	6	5	15	5
遺憾	23	11	26	13
対抗的	7	1	1	1
完結	14	9	7	8

図 1 被験者による「てしまう」各意味の使用数合計

（注：日本人：日本語母語話者 10 名，中国語：中国語母語話者 30 名，英語：英語母語話者 30 名，韓国語：韓国語母語話者 30 名）

4.2「てしまう」の習得順序

「てしまう」の習得難易度を推定するために，本稿では含意スケーリング（Implicational Scaling）という方法で日本語学習者のデータを配列整理して傾向を検討する。含意スケーリングは用法別の難易度階層と被験者の習得状況が見られる方法である（ニャンジャローンスック，2001；許，2005）。「各調査項目の難易度は，学習者がその項目を習得する順序を示し，より難しい項目を習得していれば，それより易しい項目も習得していることを意味する」（迫田，2002：201）。表 2～表 4 は日本語レベル別に「てしまう」の各用法が見られた場合「1」を，見られなかった場合「0」を記入して配列整理したものである。整理した結果，以下のような傾向と特徴が導き出された。

まず，表 2～表 4 から，日本語学習者とって「てしまう」の 5 種類の用法の難易について，母語の違いと関係なく，難易度が最も高いのは「間主観」で，「遺憾」は最も習得しやすい用法であると考えられる。このことは，「てしまう」の習得は「遺憾」の用法からであることが示唆された。

また，表 2 と表 3 から，中国語と英語母語話者は中級から「遺憾」，「非意図」，「完結」，「対抗的」，「間主観」という共通する順序で習得していくと推測される。

一方，韓国語母語話者は，表 4 に示すように，中国語と英語母語話者と同様に「遺憾」から「てしまう」の習得が始まるが，習得順序に多少違いがあり，難しい順に「間主観」，「非意図」，「完結」，「対抗的」，「遺憾」であることが分かった。「対抗的」は中国語と英語母語話者より早く中級 M から使用が見られた。それに対して，「非意図」は超級に上がってから初めて使用が観察された。「てしまう」の習得順序において，母語の違いにより個別性が観察された。

表 2 中国語母語話者による「てしまう」の使用状況

	間主観	対抗的	完結	非意図	遺憾
超級	0	0	1	1	1
上級 H	1	0	1	1	1
上級	0	1	0	1	1
中級 H	0	0	1	0	0
中級 M	0	0	0	1	1
中級 L	0	0	0	0	0
初級 H	0	0	0	0	0
初級 M	0	0	0	0	0
初級 L	0	0	0	0	0

表 3 英語母語話者による「てしまう」の使用状況

	間主観	対抗的	完結	非意図	遺憾
超級	0	0	1	1	1
上級 H	0	1	1	1	1
上級	0	0	0	1	1
中級 H	0	0	0	0	1
中級 M	0	0	0	0	1
中級 L	0	0	0	0	0
初級 H	0	0	0	0	0
初級 M	0	0	0	0	0
初級 L	0	0	0	0	0

表 4 韓国語母語話者による「てしまう」の使用状況

	間主観	非意図	完結	対抗的	遺憾
超級	1	1	1	0	1
上級 H	0	0	1	0	1
上級	0	0	0	0	1
中級 H	0	0	0	0	0
中級 M	0	0	0	1	1
中級 L	0	0	0	0	0
初級 H	0	0	0	0	1
初級 M	0	0	0	0	0
初級 L	0	0	0	0	0

4.3 母語の違いから見た「てしまう」各用法の使用傾向

表 5 と表 6 は日本語母語話者と日本語学習者における「てしまう」の正用と誤用の産出者数の推移を，日本語レベルと母語別に用法ごとにまとめたものである。

表 5 被験者における「てしまう」の正用産出者数（人）

		完結	対抗的	遺憾	非意図	間主観
日本語母語話者（10 名）		9/10	6/10	10/10	4/10	8/10
初級（各 5 名）	中国語	0	0	0	0	0
	英語	0	0	0	0	0
	韓国語	0	0	1/5	0	0
中級（各 10 名）	中国語	1/10	0	1/10	1/10	0
	英語	0	0	3/10	0	0
	韓国語	0	1/10	0	0	0
上級（各 10 名）	中国語	2/10	1/10	3/10	3/10	1/10
	英語	2/10	0	8/10	3/10	0
	韓国語	1/10	0	5/10	0	0
超級（各 5 名）	中国語	1/5	0	2/5	1/5	0
	英語	3/5	0	2/5	2/5	0
	韓国語	2/5	0	4/5	4/5	1/5

表 6 被験者における「てしまう」の誤用産出者数（人）

		完結	対抗的	遺憾	非意図	間主観
初級（各 5 名）	中国語	0	0	0	0	0
	英語	0	0	0	0	0
	韓国語	0	0	0	0	0
中級（各 10 名）	中国語	0	0	1/10	0	0
	英語	0	0	0	0	0
	韓国語	0	0	2/10	0	0
上級（各 10 名）	中国語	0	0	1/10	0	0
	英語	1/10	0	1/10	0	0
	韓国語	2/10	0	0	0	0
超級（各 5 名）	中国語	1/5	0	0	0	0
	英語	0	0	2/5	0	0
	韓国語	0	0	1/5	0	0

表 5 と表 6 に示している分数について，分母は各レベルの人数であり，分子はその中に正用または誤用を産出した人の数を表わすものである。例えば，「9/10」は「正用産出者数／各レベルの人数」であることを表わしている。各母語話者使用状況について，次の傾向が観察された。

まず，日本語母語話者では「てしまう」の「遺憾」，「完結」と「間主観」の用法が多く用いられたことが表 5 から分かった。日本語母語話者は頻繁に「間主観」の用法を使い，(3)に示したように聞き手に対する配慮を表わすが，日本語学習者が上級に上昇しても，この用法をあまり使用しなかった。(3)の「入ってしまう」は「間主観」の用法である。話し手は約束通りに行けなくなったことに対する謝罪の発話である。「大切な用事が入る」ことには話し手の意図性が薄いが，「行かない」ことは話し手による意図があるということは否定切れない。この場合，「てしまう」を付加して行為の意図性を軽減させ，その行為に対する反省の念を聞き手に伝わることを表す(一色，2011)。

(3)あ，あのー，小沢です。すみません，あのー，あすの約束なんですが，実は急にー，あのー，とても大切な用事が入ってしまいまして，行けなくなってしまったんですね。それであのー，出来たら時間と場所を変えていただいて，あのー，お会いしたいと思うんですけれども，今いらっしゃらないようですので，取り合えずあした行けないということだけ，あのーお伝えして，またのちほど，お電話おかけします。とてもすみませんでした。失礼します。

（日本語母語話者，I.O.(F)）

「てしまう」の「間主観」の用法は日本語学習者の会話において，上級中国語母語話者と超級韓国語母語話者にのみ各 1 回使用が見られた。日本語母語話者の会話では頻繁に「間主観」の用法の使用が見られるのに対して、日本語学習者の会話では，ほとんど見られないのはなぜであろうか。1 つの可能性として，談話レベルの法則は統語レベルの規則に比べ複雑で知識として学習者に与えることが難しいことが挙げられる(横山，1999)。その難しさ故に，日本語教科書で「間主観」の用法は体系的な導入や提示が少なく、十分習得される機会がないことに起因して，使用に困難が生じたのではなかろうかと推測される。従って，「てしまう」の「間主観」の用法が日本語教科書においてどのように提示されているか，更に詳細に検討する必要がある。

次に，「てしまう」の用法は日本語学習者が主に上級に上がってから，多く使用できるようになってきたことが表4から分かった。その中に，特に英語母語話者は中級から超級まで「遺憾」，「完結」と「非意図」において，正用産出者数が他の母語話者よりも多いことが見られた。「非意図」用法について，日本語学習者の使用傾向は日本語母語話者と違い，使用率が高かったが，主に「忘れる」，「考える」と「なる」の 3 つの動詞と結び付いて使用することが分かった。このことから，学習者がこの 3 つの表現を未分析のまま，一塊として丸覚えて使用する可能性がある。この点について，さらにデータを集めて検証する必要がある。(4)の「忘れちゃった」は英語母語話者による「てしまう」の「非意図」用法の使用例である。

(4)あの代々木公園で，あの国際的，あの国際，協力，〈うん〉の，あのバザー，あのやりました，その時わたしあの，あのーバングラデシュのーなんと言いますか，もう忘れちゃった，あのー手で作った，なんと言いますか，ていしょくげん。　（日本語学習者，EAH03）

また，韓国語母語話者では，「遺憾」に関して，初級に正用産出者が 1 人観察されたが，多く見られたのは上級に上がってからであり，ほかの母語話者に比べ，やや遅れていることが分かった。中級には産出者 2 名が見られたが，誤用であった。

中国語母語話者において，「てしまう」の各用法の正用産出者数はより早い段階で中級から見られた。しかしながら，産出者数は超級まで少なく，表 4 に示しように各用法に 1〜3 名のみであった。

日本語学習者による誤用の形に関しては，調査の結果，13 個の誤用のうち 8 個が「た」を使用すべきところに，「てしまう」を過剰使用しており（中級では中国語話者に 1 個，韓国語話者に 2 個，上級では英語，中国語と韓国語話者に各 1 個，超級では英語と中国語話者に各 1 個），全体の 61.5%を占めていることが分かった。(5)と(6)は日本語学習者による「てしまう」の過剰使用の用例である。

(5)被験者：はい，〈あーそう〉それで，〈うん〉なんか小さいですね，〈んー〉プライベ，〈ふんふんふん〉レッスンみたいに，〈あー〉そうする。
OPI テスター：うん，Sさんもなにか習っていましたか。
被験者：いやわたしは昔はピアノの，して，〈あそう〉もうダメだーと思って。
OPI テスター：あ，自分が，習おうと思ったんですか。
被験者：いや，お母さんが，女だからー〈うん〉習わなきゃあと言って。
OPI テスター：ピアノを。
被験者：はい，〈あー〉でも，興味なかったからすぐ *やめちゃった （辞めました）。
OPI テスター：んー，あそう，〈はい〉でそのときお母さんはどう言いました。
被験者：んー，すごく怒ったんだけどー，〈んー〉まあしょうがない，〈しょうがない〉＊＊，んー。
（日本語学習者，KAH03）

(6)いや，2，3 回吸ったことがあった，中学校 1 回 2 回，〈あー中学生とき〉え試しに，〈うん〉それでもパパの前で，うちの親そんなに気にしない，ですけどね，うちの親も，親父も，そうですけど，50，55 歳まで，〈うん〉吸ってまして，〈あーそうですか〉さすがねえやはり年とってきて，〈うん〉体によくないん〈うん〉らしいんでね，それであのねやはり *やめちゃった （やめました），いまもう全然のまない，すわないでいます。
（日本語学習者，CS04）

(5)と(6)での「やめる」を「やめました」にすると，動作の完了を表わす。日本語学習者は「やめ

る」という動作が完全に行われたことを表わそうとして，「てしまう」を用いたと考えられる。しかしながら，(5)と(6)に示したように，「やめる」は「てしまう」と共起して，必ずしも「やめる」という動作が最後まで完全に行われたことを表わしているとは限らない。このような過剰使用が引き起こされる原因としては，「完了」用法の「た」と「てしまう」の機能の混同の中で，「てしまう」を過剰一般化している可能性が挙げられる。

以上，「てしまう」の習得は「遺憾」の用法から始まり，中国語と英語母語話者に共通する習得順序が推測されたが，韓国語話者とは習得順序に多少違いがあり，母語の違いにより個別性が観察されたことを述べてきた。

5. まとめ

本稿では中国語，英語と韓国語を母語とする日本語学習者を対象に，補助動詞「てしまう」の用法を「完結」，「対抗的」，「遺憾」，「非意図」と「間主観」の 5 つに分類し，習得順序を観察し，習得過程に母語による違いが見られるか，日本語母語話者とどう違うかを考察した。

その結果，「てしまう」の習得は「遺憾」の用法から始まり，中国語と英語母語話者は「遺憾」，「非意図」，「完結」，「対抗的」，「間主観」という共通する順序で習得していくのに対して，韓国語母語話者は，「遺憾」，「対抗的」，「完結」，「非意図」，「間主観」の順序であることが推測された。

また，日本語母語話者では「てしまう」の「遺憾」，「完結」と「間主観」の用法が多く用いられた。一方，日本語学習者では「遺憾」，「完結」と「非意図」の用法が高い率で使用されたことが観察された。「非意図」の意味について，日本語学習者の会話では使用率が高かったが，主に「忘れる」，「考える」と「なる」の 3 つの動詞と結び付いて使用する傾向があった。

引用文献

庵功雄・松岡弘・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

一色舞子(2011)「日本語の補助動詞『－てしまう』の文法化：主観化，間主観化を中心に」『日本研究』(高麗大学日本研究センター)，*15,* 201-221.

許夏珮(2005)『日本語学習者によるアスペクトの習得』東京：くろしお出版.

金水敏(2000)『時の表現』金水敏・工藤真由美・沼田善子(著)『時・否定と取り立て』(岩波書店)，1-92.

金田一春彦(1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」金田一春彦(編)(1976)『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房)，27-61.

江田すみれ・小西円(2008)「3 種類のコーパスを用いた 3 級 4 級文法項目の使用頻度調査とその考察」『日本女子大学紀要．文学部』，*57,* 1-28.

迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』東京：アルク.

スニーラット・ニャンジャローンスック(2001)「OPI データにおける『条件表現』の習得研究：中国語，韓国語，英語母語話者の自然発話から」『日本語教育』，*111,* 26-35.

高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」 金田一春彦(編)(1976)『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房), 119-153.

棚橋明美(1996)「英語を母語とする日本語学習者による『～てしまう』の使用について」『言語文化と日本語教育』, *12,* 24-33.

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』東京:くろしお出版.

中山富子(2015)「補助動詞「～てしまう」の考察:談話の構造に注目して」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』(昭和女子大学大学院文学研究科言語教育・コミュニケーション専攻), *10,* 1-19.

守屋三千代(1994)「『シテシマウ』の記述に関する一考察」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』, *6,* 49-70.

横山紀子(1999)「インプットの効果を高める教室活動:日本語教育における実践」『日本語国際センター紀要』, *9,* 37-54.

吉川武時(1973)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」 金田一春彦(編)(1976)『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房), 155-327.